



2022年4月発行
社会福祉法人ありのまま舎
(障害者自立企画)

発行・編集責任者 白江 浩
編 集 佐藤 環

〒982-8544

仙台市太白区西多賀4丁目19-1

TEL022(243)1300

<http://www.arinomama.or.jp>

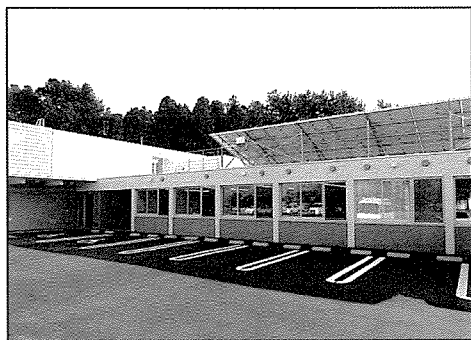
E-mail houjin-arinomama@globe.ocn.ne.jp

2022年度 社会福祉法人ありのまま舎事業計画より



2021年度は2020年に引き続き、新型コロナウイルスの対応に追われ、2年にわたるコロナ禍との闘いは予想以上に全世界の人々に大きな犠牲と課題を与えました。国内においても様々な取り組みがなされ、コロナ禍以前の生活またはコロナ禍以前を超える生活のあり方が問われるようになり、少し前向きで新たな取り組みが生まれようとしています。

「障害」のある人にとってのコロナ禍の恐怖は罹患が生命の危機に直結しかねないことにあり、罹患後の後遺症、ワークチンの副反応と併せて、高齢の方と同様に大きな生命のリスクとなっています。それを少しでも緩和し、防止するためにありのまま舎のみならず、多くの障害・高齢福祉関係での規制や感染防止対策は、生命のリスクと人権との狭間で揺れています。ありのまま舎においても常にその恐怖の中にありつつ、葛藤の中のぎりぎりの選択をし、一日一日を乗り越えるほかない日々を続けてきました。



今年4年目を迎える地域生活支援拠点
「県南ありのまま舎」

2022年度は、事業計画の第2期5か年計画をスタートさせ、その前期2か年にあたります。2022、2023年度を新たなスタートのためのターニングポイントとして位置づけ、ポストコロナ禍に向けて準備を始める年にしたいと思えます。本年度は現状をより堅固にすることと、すでに提案している未実行事業の開始に注力する計画を進めていきたいと思えます。

理事長就任ご挨拶

第四代の理事長を拝命しました白江(しらえ)浩(ひろし)です。

今までは、山田三兄弟プラス一人で血縁はありませんが、四人兄弟の末っ子のように可愛がってもらい、守られてきました。実の両親、兄弟はひとりも看取れませんでした。山田家のご両親も三兄弟も全て看取り、取り残されて生きて来ましたが、誰もいなくなつてからは、長く常務理事を務めさせて頂きましたが、理事長の下で、その防波堤の陰におりましたので、何とか務めて来られました。常に誰かの陰で何とかやれてきましたが、とうとう自分が前面に立つことになりました。これまで築いてきたありのまま舎の歴史と実績は、身近で見えてきただけに、引継ぐ重さを改めて感じております。これまでの理事長に比べ、威厳もカリスマ性もなく、力不足で大丈夫か、と多くの方が思われていると承知しています。少し見方を変えて頂くと、それだけ職員がしつかりしているということだと思います。それゆえに、ある意味突然のご指名に対しても、躊躇しながらも最後は承諾させて頂きました、とも言えます。小なりと言えども「誰もが相互にありのままの尊厳を大切にしながら、生きられるケアコミュニティを目指す」組織の責任者として、その思い(理念)の実現を担うこととなった重責を感じています。その歴史に込められた思い(理念)を精一杯伝え、次の世代に引継ぐのが最大の使命と肝に銘じて、前に進みたいと思えます。全ては平和が基礎にあります。それが常に脅かされている以上、共に生きられる社会は誰にも約束されません。相互排除が目的の戦禍では、実現はおろか、私たちが言う理念さえ空疎に響きます。大きな話ですが、今私たちにできることを実践し、努力を続けます。引き続きのご指導ご支援を切にお願い致します。

仙台エリアコミュニティ

【西多賀エリア】(法人本部)

【基本理念】

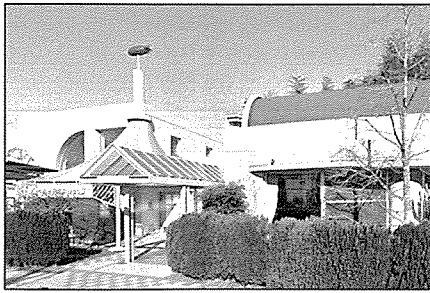
ケアコミュニティの創造
お互いのありのままの存在を認め、尊重し、共に生きるコミュニティづくり

1. ケアの本質に沿ったコミュニティづくりを目指す

2. 全ての人があるままの自己を認め、ありのままの他者を尊重するコミュニティづくりを目指す

3. 誰もが生きた意味を見出し、役割を担い、自らの人生を全うでき、自己実現できるコミュニティづくりを目指す

4. 多様な人々、専門性、分野が相互作用し、ケアしあうコミュニティづくりを目指す



西多賀エリア【法人本部・自立センター・自立ホーム・サポートケア仙台・ライフケア仙台】

【理念の発信

(活動センター)】

理念の発信活動はありのまま舎運動の原点ですが、実施体制が不安定な中、不十分な状態で停滞しています。今年度は本部事務局、法人運営委員会を通して検討を重ね、それぞれの活動について具体的に検討し、実践できることから進めていきます。活動が制限される中で、会報「自立」は大切な情報の発信源です。さらに誌面の充実を図っていきます。ありのまま生活福祉講座、ありのまま自立大賞は2年続けて中止となりましたが、コロナ禍からの再開を目指し今年度は再開できるように進めていきます。

【自立センター】

バザーやショップを運営し、活動資金の捻出と地域交流を深めることを目的に年間を通じて開催を継続していきます。コロナ禍で規模の縮小、お客様の減少はありますが感染症対策を行い出来る限り行っていききたいと思っています。



自立センターを担当してから十年目になります。震災後は仮設住宅でのバザーを含め、毎月十回前後のバザー会を行っており、加えて地域のお祭りや文化祭、フリーマーケットへの参加などあり、毎回賑やかに開催できています。現在は、コロナの影響でお祭りやフリーマもほぼ開催されず、定例のバザー会も会場に足を運んでくださる方がぐっと減っています。バザー会は、地域の方々とのありのまま舎をつなぐ架け橋だと思っています。皆様に楽しく参加して頂ける様に、商品の準備なども進めて参りますので、どうぞお時間ができた際には、バザー会に立ち寄って下さい。きつと新しいお友達もできますよ。

(副主任 川尻誠)



コロナ禍でバザー会も大きく変わりました。月1回自立ホームで行っているショップセール&バザー会は現在も開催中です！

【自立ホーム仙台ありのまま舎リビングセンター】
入居者の高齢化と重度化が進み、日中支援型サービス(日中支援の強化、夜勤体制等)の検討、計画化を進め、一定の目的をたてていきたいと思っています。

3月に新しい入居者が入居され7名になりました。今年度は安定した運営とともに、スタッフの体制を強化しおひとりの生活に寄り添って支援していける体制を構築していきたいと思っています。コロナ禍で入居者の方々にも体調管理や感染症対策のご協力をお願いし本当に感謝しています。今年も入居者、スタッフ共々元気に過ごすことができるようにと思っています。

(ホーム長 佐藤環)



今年もホームの桜がきれいに咲きました。毎年入居者の方が心待ちにしています。

【サポートケア仙台ありのまま舎(難病・障害者相談支援センター)】
ありのまま舎の入居者、利用者を中心とした計画相談の作成と相談業務を行っています。また、二年後の仙台市緊急対応拠点受託に向けた準備及び基幹相談のあり方を検討し具現化していきます。

相談支援事業は障害のある方やご家族にとつての身近な相談支援機関としての役割と使命をもって積極的に事業を展開して参ります。

サポートケア仙台ありのまま舎は、障害児者計画相談支援事業所として、太白ありのまま舎と互理ありのまま舎に入居している方や、サポートケア仙台ありのまま舎が拠点としている仙台市太白区で生活されている方を中心としたサービス等利用計画・障害児支援利用計画作成業務を継続して進めて参ります。

(管理者 齋藤栄樹)

【ライフケア仙台ありのまま舎ケアセンター】

ヘルパー派遣を行い在宅の支援を行う事業です。昨年4月から再開しました。資金的に厳しい状況がありますが、ケアのニーズと人員確保を総合的に判断し、今年度は取り組んでいきたいと思っています。

再開して2年目に入りました。同じ法人内で、利用者の思いを聞き福祉サービス等につなげていく相談支援事業所や、生活施設であるグループホームなどもありますので、それぞれの立場のスタッフからいろいろなアドヴァイスを受けることができるのは、当事業所の強みと思っております。ライフケア仙台が行うご自宅等でのケアは、利用者の地域の中での生活を支える重要な部分を担うものです。この一年は、人員の関係で利用したいという方々の依頼を断ることを少なくしていけるよう、一緒に働いてくれる仲間(理解者)を増やし役割を果たしていきたいと思っております。

(管理者 中村悦子)

【法人体制】

事業継続のためには人材確保は不可欠です。他産業、法人、事業所等との違い(ありのまま舎独自の理念、処遇面等)を明確にし、ホームページ・パンフレット等のツールの全面改訂及び見直しを人材確保につなげていきたいと思っております。同時に職場環境の改善にも取り組んでいきます。

現在3エリアで事業展開を行っており専門職間のコーディネート指導等を担当するマネージャー制度の拡充をしていきます。

また、2022年度以降の事務局体制のあり方を整理し、内部統制及び各エリアの事務局体制の確立を目指します。ご支援をいただいている協力団体や個人の皆様など、おひとりおひとりの繋がりを把握し、感謝の気持ちを忘れず、ありのまま舎理念の実践を通して応えていきたいと思っております。

2022年度がスタートしました。コロナ感染症は徐々に収まりつつありますが、今年度の目標・抱負としては、感染症対策について気を緩めることの無いよう取り組みつつ、やむを得ず制限をかけていた事業なども状況を見ながら実施に向けて取り組んでいきたいと思っております。

また、法人の活動や様子などもより広く深く知っていただければ、感謝の気持ちを大切にしながら広報や周知活動を取り組みつつ、法人全体で入居者・利用者・スタッフ含め健康で生活できるよう、引き続き法人事務局の健全な運営と健康経営の取り組みを継続していきたいと思っております。

(事務局次長 嶺岸智)

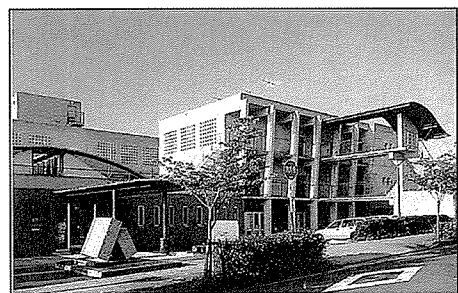
【茂庭台エリア】
◆難病ホスピスケア

太白ありのまま舎

重度・重症化がさらに進んでいます。目指すケアの実現のため定員減員及びそれに伴う改革の実行と運営の安定化を目指します。2022年度中の定員移行、2023年度中の地域生活支援拠点機能の拡充に向けた改革の実行を進めます。各セクションからの目標と豊富です。

新年度を迎え、太白ケアとしては①入居者個々へのサポート強化②入居者ご家族支援③ケアスタッフの質の向上の3つを目標とし入居者のサポートを行っていきたくと考えております。

①につきましては、入居者一人一人を知り、理解を深め、入居者



茂庭台エリア【太白ありのまま舎・チャイルドケア仙台】

者の気持ちに寄り添ったケアを目指して行きます。②につきましては近年ご家族と入居者、スタッフとの関係性が薄れがちです。3者が情報を共有し、何事も相談できる関係性を構築していきます。③につきましてはスタッフ個々が研修等を通し、多くの知識や技術を身に付け、入居者のケアに反映させていきます。

今年度はブロック体制になり2年目を迎えます。試行錯誤が続くとは思いますが、各ブロックの特色を活かした入居者のサポートを行い、明るく、日々変化を感じられる、活気溢れるケアの提供を目指していきます。

(ケアチーフ 鹿野和彦)

4月から新しく、光明支援学校を3月に卒業した方が利用する事となりました。新しい環境に慣れて頂きたいと思っておりますので、色々コミュニケーションを通して、ありのまま舎に馴染んで頂きたいと思っております。そして、日中活動としては、入居者の日中の時間をより良いものにしていければと思っております。また外部利用者も日中の介助サポートを継続しつつ、入居者と外部利用者が活動をしていく中で、様々な考えや今後のお話しが出来るようにサポートしていきたいと思っております。

(ケアティヴィイケアチーフ 佐藤信広)

栄養マネジメントの目標は、「入居者一人一人に合った安全・安心で美味しく楽しい食事の提供」です。衛生管理の徹底はもちろんですが、入居されている方達はある方がほとんどです。そんな方達に適切な食事の形態で安全・安心な食事を提供できるようにしたいと思っております。また、長引くコロナウイルスの影響で、外出を自粛して頂いている為、施設内で少しでも楽しんで頂けるように、行事食の提供や、バイキングやイベントを開催していきたいと思っております。(栄養マネジメントリーダー 本庄里絵)

入居者の方々が「安心・安全」に生活が出来る環境づくりをモットーに、メディカルスタッフはマンパワーの少ない中、日々努力しています。身体機能・免疫力の低下に伴う合併症を引き起こさないためにも、異常の早期発見に努め、現状維持を願っています。

この2年間は新型コロナウイルス感染症予防に向けた取り組みを中心に展開してきました。3回目ややっと終了できたワクチン接種ですが、治療薬が確実な物となり1日も早く「我慢」の終わる日常が戻ることを願いながら、いつの時も入居者の安心・安全優先に、変わず進めていく所存です。(メディカルマネージャー 菅野優子)

◆チャイルドケア

仙台ありのまま舎保育園

医療的ケアが必要な子どもたちの受入れを含む園児の安定確保と安定運営の確立を目指します。法人内施設や近隣福祉事業所職員の子どもの受け入れを中心に、スタッフが安心して育児と仕事を両立することができ環境作りを行います。



いつも元気な子どもたちです!

(園長 春日麻里)

新しい年度がスタートしました。これからまた新しい成長の葛藤が出てくるでしょう。子どもたちのその気持ちに寄り添いながら、自分で考え行動する力やお友だちを理解し思いやる気持ちを育んでいきたいと思っています。保護者の皆様におかれましては大変な社会情勢のなか、悩むこともあるかと思えます。迷った時はお話ししながら、一緒に成長を見守っていきましょうね。よろしくお願いたします。

名取エリアコミュニティ

【名取エリアコミュニティ】

◆サポートケア名取ありのまま舎(難病・障害者相談支援センター)

着実な実行を進めており、名取市における基幹相談及び地域生活支援拠点整備の動向を見つ、積極的に対応していきます。地域への情報発信やつながりのための行事の実施、個別支援を通しての繋がりに等により、地域住民・各関係機関との連携体制の構築を目指します。

昨年度は、「相談支援事業所ではこんなこともやっています!」をテーマに業務内容をご紹介して参りました。その中で名取市の地域課題についても触れておりましたが、名取市地域づくり協議会でも今年度の検討課題の抽出が終わりました。今年度は医療的ケア児者やいわゆる強度行動障害の方々も利用できる社会資源の開発・開拓や相談支援体制の整備、児童発達支援センター設置も含めた障害児療育支援体制の整備などが挙げられています。これら以外にもたくさん課題はありますが、地域の関係機関の方々とともに一つでも多く、解決を図っていかれたらと思います。

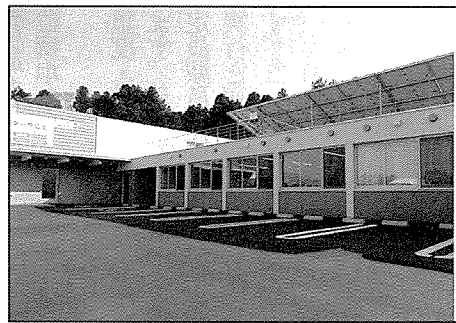
(センター長 熊谷経子)

県南(岩沼市・亘理町等) エリアコミュニティ

亘理地域生活支援多機能拠点型施設として開所し4年目を迎えました。当面は活動を軌道に乗せ安定化させることに注力するとともに今後の方向性について明確に検討していきます。グループホーム、子ども支援についても検討も行い一定の方向性を示したいと思っています。

◆難病ホスピスケア亘理ありのまま舎・アクティヴィティケア県南ありのまま舎(日中活動)

施設入所30名が達成し、新施設として一日も早い安定運営を確立することを目指します。自己決定に基づき自己実現できる場としての役割を十分発揮できるように体制整備に努め、地域及びコミュニティの資源として活用されるよう努めていきます。



地域生活支援拠点「県南ありのまま舎」

各セクションからの目標と豊富です。

亘理ありのまま舎として、開所から4年目を迎え入居者の方の満床、ショートステイ・生活介護利用の方々も定期的に利用して頂いています。入居の方、利用の方の生活の質について考え、亘理ありのまま舎に来てよかったですと思っ頂けるようなサポートを追求していかなくてはならないと感じております。またコロナ禍ということで、外部利用の人数を制限しており、新規の方の利用がなかなかスピーディーには進められない状況です。感染状況をみながら、希望の方々に一人でも多く利用して頂けるように努めていきたいと思っています。

(サービスマネジメント・アクティヴィティケアセンター長 金子仁)

入居者・ショートステイ・生活介護の利用者が増え、スタッフの業務も流れも段々と形が出来てきました。開所当時はどの様に動けば良いのか悩んでいましたが、日々業務を行う中で皆と話し合っ少しずつ作業導線や、調理方法、献立等の形が出来てきました。安全で効率の良い業務を出来る様に色々なことに挑戦し、統一しました。

施設ごとに作業導線や、提供方法、食事内容も様々で、マニュアルも違う為、日々の業務を行う中で実現可能かどうか考える必要がありました。「何かを作り上げる」ということは、色々な事に挑戦する事、失敗すること、失敗から改善すること」がとても重要な鍵なのだと感じました。これからは沢山の事に挑戦して利用者にとってより良い生活が提供出来たらと思います。

(栄養マネジメントサブリーダー 山崎佳奈)

施設開所から3年、その間の2年間は「新型コロナウイルス感染症予防対策」に追われる日々でした。入居者の数も増えていく中、走り回り自力移動可能な入居者の方が多く、「ゾーニングなどの対応はこれで良いのか?」と自問自答する事もありました。3回目ワクチン接種が全員終了まではもう少し時間が掛かりそうですが、身体機能・免疫力の低下に伴う合併症を引き起こす事なく、「安心・安全」に生活が出来る環境作りの継続と、治療薬が確実な物となり一日も早く「我慢の生活」が終わる事を願い業務に当たる所存です。

(メディカルマネージャー 菅野優子)

◆サポーターケア亘理ありのま
ま舎基幹相談支援センター

亘理町が求める基幹相談並びに本来あるべき基幹相談の姿を追求し、障害・難病等をはじめとする地域住民への責務を果たしていきます。地域住民と関係機関構築及び亘理町が求める機能を遂行し課題を自立支援協議会との連携で解決を目指します。

新年度となり、当センターが開所し4年目を迎えました。今年度の重点目標を二つ掲げました。

一つ目は、「障害のある方が地域でその人らしい生活を各ライフステージで送ることができるよう、課題解決に向け多職種連携で取り組むこと。」です。亘理町の高齢化率は31%となり、ご本人とご家族を含めた権利擁護支援は多職種連携のもと重要な取り組みと考えております。二つ目は、「障害児者家族、亘理町福祉課、総務課、民生委員児童委員、相談支援事業所等との連携と協働により、障害児者の災害時避難計画を作成し、災害時における横断的な支援体制を構築する。」を掲げました。東日本大震災から11年が経過しましたが、今なお大きな地震や自然災害は私たちの日常生活の脅威となっており、欠かせない取り組みです。

二つの共通項は、「連携」と「協働」です。お互い理解を深めながら多様な主体が参画し、目標を達成できるように努めて参りたいと思っております。(センター長 菊地理)

◆サポーターケア県南ありのまま
舎(難病・障害者相談支援センター)

委託相談支援事業を受託している岩沼市・亘理町の障害のある方とその家族等との基本相談支援を展開し、丁寧に、かつ積極的な関わりの中で自己実現に向けた相談支援を展開していきます。

岩沼市と亘理町からの委託による基本相談支援を事業の柱として実施します。障害のある方やその家族等からの様々な相談に応じ、生活上の困り感や希望の実現に向けたお話を伺い、伴走型での継続した相談支援の実践を進めていくとともに、生活の質を高める上で福祉サービスを利用しながら暮らしや活動を進めていく方へのサービス等利用計画・障害児支援利用計画作成業務も合わせて実施して参ります。(センター長 齋藤栄樹)

各エリアコミュニティより責
任者、各セクションの抱負を掲
載させていただきました。現場
の様子やそれぞれの取り組みも
感じていただければ幸いです。

コロナ禍の状況が続きます。各エリアで求められていることをスタッフ一同、丁寧に、諦めず、進めていくことができるようにと思っております。どうぞ今後とも支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

御礼と感謝

【ほつきめしのご提供】

亘理町にある鳥の海ふれあい市場さんが仙台市内にある仙台クリスロードの場所をお借りして亘理町の物産展を開催されました。その売り上げの一部を地域に貢献したいとお申し出があり、亘理ありのまま舎の皆さんに亘理町の名物「ほつきめし」を食べてもらいたいと65名分をいただきました。3月30日(水)のお昼に入居者・利用者・スタッフの昼食として頂きました。

お刺身などの生ものが好きなお客さんには、「ほつきがとても軟らかくて美味しい。」と召し上がっておられ、普段昼食があまり進まないBさんは、「美味しい。少しとっておいで夜も食べよう。」

う。」と分けて召し上がっておられました。旬の美味しい亘理町の名物をありがとうございます。(金子仁)

【日中活動で活用!】

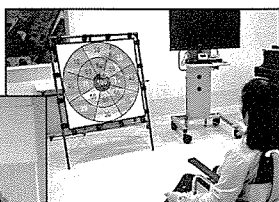
この度、亘理町を通してNHK歳末助け合い事業費助成で30,000円を頂き施設でターゲットゲーム(ボールを投げてマジックテープの的に当てるゲーム)と利用者の皆様へのクリスマスプレゼントを購入致しました。利用者の皆様の日中活動が充実し、楽しまれている声が聞こえています。

また亘理町社会福祉協議会様からクリスマスツリーをご寄付いただき施設内がより一層賑やかに利用者の方々の笑顔が増えました。関係してくださった皆様本当にありがとうございます。(坂本朋絵)

県南ありのまま舎



(左) 荒浜にぎわい回廊商店街 菊一商店 代表取締役 菊地一男様
(後列中央) 鳥の海ふれあい市場の皆様
(後列右) 亘理町商工観光課 課長 関本博之様



ターゲットゲームとクリスマスツリー。日中活動等で活用させていただきます。



在宅介護を応援します!!

ケーアイ調剤薬局

〒982-0031 仙台市太白区泉崎1丁目34-16
Tel・Fax 022-743-3161

「支援頂きありがとうございました(敬称略)」
「書き損じはがき等」

22 2/23 ~ 3/25

【バザー提供】

22 2/25 ~ 3/23



【シヨップ提供】
(栗原市) 有限会社アルコン
(川尻誠)

「ポトルカンパありがとうございました(敬称略)」

22 2/22 ~ 3/25
サン・マルシェ東中田店
(太白区) 10,642円

いつもお伺いする度に、店員

の皆様の明るい応対に学ばされる思いです。「お客様の為に」を体現されているお店だと強く感じました。

ありのままシヨップ(太白区) 7,164円

コロナ禍のなか、感染予防対策を徹底しながら月一回のシヨップセールを開催させて頂いております。楽しみにされているお客様に支えられ開催が出来る事に感謝の気持ちでいっぱいです。

ケーキサロン銀のりぼん 286号バイパス店(太白区) 8,697円

3月下旬よりお店の改装の為に休業される旨のご連絡を頂きました。さらに素敵なお店に生まれ変われるのを楽しみに致しております。

フードシヨップテルマート(太白区) 4,219円

自立ホーム開設時より、配達などで入居者の生活をお支え下さり、長いお付き合いを頂いております。

ありがとうございました。



【バザー開催日のご案内】

《2022年5月》

3日(火)ヨコハマ・丸山田鈎取店(太白区)

5日(木)ヨークマリン大和町店(若林区)

10日(火)ヨーク・マル南吉成店(青葉区)

12日(木)鶴ヶ足生鮮いちば(宮城野区)

17日(火)ヤマザワ茂庭店(太白区)

26日(木)鶴ヶ足生鮮いちば(宮城野区)

28日(土)シヨップセル(仙台ありのまま舎)

31日(火)袋原(向日葵フーフサポートセンター・太白区)



ホームページにはバザー会の情報やご協力いただきたい品物を掲載しています。ぜひご覧ください！

「協力ありがとうございました(敬称略)」

【本部】

◆会報発送のための帯封の糊付けを、仙台西高等学校JRC有志・個人の皆様にお手伝いいただきました。

◆会報の折り込みは、日本基督教団東北教区婦人会の仙台北三番丁教会の皆様、仙台宮城野教会の皆様が、それぞれの教会内で、日曜日の礼拝の後の時間を、使い、お手伝いくださいました。

◆バザー会では、販売や片付けなどお手伝いをいただいております。また、毎月一回のシヨップセールの会場でも準備や片付け等お手伝いいただきました。

【太白ありのまま舎】

◆宮城県車いすダンス協会様による「車いすダンス」 ◆仙台シルバーネットの皆様による「読書会」 ◆茂庭台ボランティアグループの皆様による「気ままに書く会」(書道)などの活動は、現在もお休みさせていただいております。入居者の皆さんが再開の時を楽しみに待っております。

入居施設内だけでなく、啓発活動もたくさんの方の協力者のお力添えを頂戴して活動しております。感染予防のための制限の中でもなお、これまで以上に支えてくださいますことに心より感謝しております。(中村悦子)

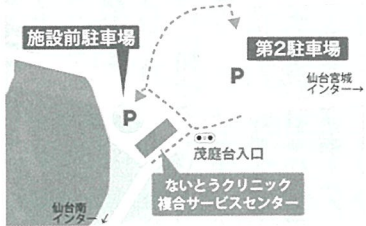
当クリニックは、難病ホスピス太白ありのまま舎・自立ホーム仙台ありのまま舎の入居者の健康をサポートします。

茂庭台
ないとうクリニック
院長 二井谷 友公

(診療科目) ●内科 ●小児科
電話 (022) 281-5490

診療時間

- ◆月～木曜日
午前 9:00～12:00
午後 3:00～5:00
- ◆金曜日
午前 9:00～12:00
午後 3:00～4:45
- ◆土曜日
午前 9:00～12:00
- ◆休診日 日曜日・祝日



※ 診療時間についてはお問い合わせ下さい

ありのまま舎後援会 (敬称略)

22 2/21 ~ 3/31

【2021年度法人会費】

以上一口

【2022年度法人会費】

以上一口

【2022年度個人会費】

【2022年度賛助会費】

ありがとうございました。

(事務局 佐藤環)

【自販機販売設置支援】

◆サントリービバレッジ

2月分の売上の一部をご寄付
頂きました。

こくみん共済coop

宮城推進本部 1,083円

ありのまま舎(自立ホーム・

太白ありのまま舎・サポートケ

ア県南・巨理ありのまま舎)

9,553円

【後援会員を

募集しています】

ありのまま舎活動を一緒に支援し
ませんか。

◆年間会費

・個人会員 10,000円

・法人会員 20,000円

・賛助会員 3,000円

途中退会も可能です。

(担当 佐藤)

【ありのまま舎運営協力寄付金】
22 2/15 ~ 2/28
(敬称略)